

【事業実績】

1. 障害特性に合わせた周遊型の鑑賞の場づくり

(1) 地域資源5会場での障害特性に応じた体感型展覧会の開催（継続・発展事業）

① 出展アーティストや専門家などとともに障害のある作者・作品の調査

13名（芝田貴子／酒井美穂子／佐々木卓也／橘高博枝／五則野わらじ／清野ミナ／平野智之／鮎 万里絵／三橋精樹／山崎健一／藤岡祐機／瀬尾ひろみ／小原二三夫）

② 会場となる地域資源の調査

使用した資源数：7箇所（ボーダレス・アートミュージアムNO・MA（中核館）、奥村家住宅、岡田邸、まちや倶楽部、尾賀商店、寺本邸、八幡山展望館）

※尾賀商店は、4. 人材育成でのキュレーションサポーターの成果展会場

③ 障害のある作者と出展アーティストや専門家などとの共作による作品の創出

5組（ごまのはえ×芝田貴子、酒井美穂子（×電気蜻蛉）、平野智之（×アトリエカフェ）、小原二三夫（×アトリエカフェ）、辻智彦×橘高博枝、五則野わらじ、清野ミナ）

④ 図録の発行 部数：200部

(2) 視覚障害者に対応した音声・触覚メディアの作成（継続・発展事業）

① 検討会議：2回（7/7、11/8）

② 触覚メディアの作成（触図、3Dプリントなど）

・ 出展者の絵をレリーフ化した「触る絵」を作者と共同製作した。

③ 音声再生システムの開発

・ 出展者の作品に着想を得て、作家が脚本を書きおろし、オーディオドラマ化した作品を製作した。

④ 音声・触覚メディアの公開

・ 出展者の作品に着想を得て、作家が脚本を書きおろし、オーディオドラマ化した作品を展覧会場で聴くことができるインスタレーションを展開した。

・ 出展者の絵をレリーフ化した「触る絵」を、点字とともに会場で公開した。

・ 検討会議の構想をもとに、1会場は全て触れる展示とした。



障害のある作家とアーティストとのコラボ

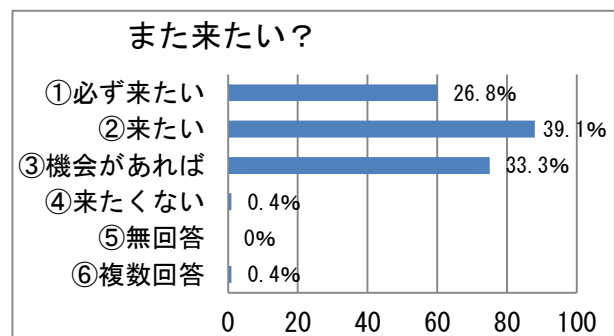
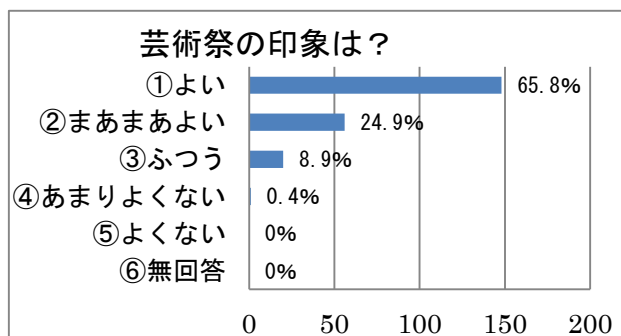


触る絵（レリーフ）



触れる鑑賞

【参考：アンケート結果】



2. 鑑賞サポート

(1)障害特性に配慮した情報保障（継続・発展事業）

①鑑賞ガイド、点字などの作成

- ・全会場の全ての文字情報の点字翻訳と英語翻訳を行った。
- ・出展者の作品をモデルにしたぬいぐるみが展示の説明をする音声ガイドシステム（日本語・英語）を開発した。

②会場を分かりやすく繋ぐ導線の設計

- ・地図を読むのが苦手な人や初めて近江八幡を訪れた人が迷わずに全会場を巡る「サポートガイド&ルートガイド」を作成した。
- ・全会場をスムーズに巡れるよう、交差点や店先等に誘導サインを設置した。



音声ガイドシステム



誘導サイン

(2)障害特性に配慮した鑑賞プログラム（他の補助事業により実施）（新規事業）

「ボーダレス・エリア近江八幡芸術祭 ちかくのたび」

2019年9月21日～11月24日（開館日数：55日間）

①鑑賞プログラムの実施

【盲ろうの人と楽しむ芸術鑑賞会】

実施日：2019年10月18日（金）

参加者：29名（当事者6名）

内容：学芸員による作品説明、作品制作と鑑賞

【発達障害の人と楽しむ芸術鑑賞会】

実施日：2019年11月9日（土）

参加者：17名（当事者3名、家族3名、支援員1名、その他10名）

内容：3会場の鑑賞、振り返りの時間の設定

【みる・きく・さわる作品鑑賞会】

実施日：2019年11月16日（土）

参加者：15名（内、当事者2名）

内容：視覚に頼らない鑑賞会、聴覚による鑑賞、触覚による鑑賞"



盲ろうの人と楽しむ芸術鑑賞会



みる・きく・さわる作品鑑賞会

【盲ろうの人と楽しむ芸術鑑賞会】参加者の声

- ・目が見えなくなってから「見る鑑賞」を諦めていましたが、「触れる鑑賞」で新しい発見がありました。（当事者）
- ・盲ろうの方が、どのように鑑賞されるのか実際にそばに同席させていただき、介助の方とペアになって鑑賞体験される状況などを見られて貴重な機会となりました。（参加者）

【みる・きく・さわる作品鑑賞会】参加者の声

- ・アイマスクを携帯して、触覚や聴覚を頼りに芸術を味わいました。「見る」ことに頼らないことに不安もありましたが、想像力を働かせて鑑賞することが純粹に楽しかったです。（参加者）
- ・弱視として生活している中で、「体験」や「芸術」として接する機会は新鮮で非常に楽しかったです。（当事者）

3. 地域における活動・交流の場づくり促進事業

(1) 創作体験プログラムの実施（継続・発展事業）

① 創作体験プログラムの実施

【手でみるカタチの世界】

実施日：2019年10月5日（土）

参加者：1回目17名、2回目12名 計29名

内容：作家の公開制作、創作体験、鑑賞会

【アートにどぼん！ワークショップ】

実施日：2019年10月14日（月・祝）

参加者：16名

内容：写真から音楽を作成、日光写真の撮影

② 沖島を活用したワークショップの実施

【ちかくのたび in 沖島】

実施日：2019年10月26日（土）

参加者：17名

内容：島内で収集した材料を用いた制作体験



手でみるカタチの世界



アートにどぼん



ちかくのたび in 沖島

【手でみるカタチの世界】参加者の声

- ・制作実演には驚き以外の言葉がありません。
- ・ユニークな作品をたくさん見ることができて楽しかったです。実際に作品に触れることができたのも良かったです。
- ・実際に創作の様子が拝見できて、とてもよく作品を理解できました。

【ちかくのたび in 沖島】参加者の声

- ・沖島で土に触れ、浜で陶器のかげらや貝殻を拾い、思いのままに作品をつくる至福の時間でした。
- ・自由に作品をつくり、それぞれの個性が出てきているところがとても興味深かったです。

(2) 「ばったり床几（しょうぎ）プロジェクト」の実施（新規事業）

- ① 地元商店への共働の呼びかけ 地元商店を中心に協賛の依頼を行った。
- ② ばったり床几の作成・設置 特別協賛：10カ所 一般協賛：3カ所
- ③ ばったり床几の周遊プログラムの実施



ばったり床几

(3) 会場ボランティアの運営（継続・発展事業）

① 会場ボランティアの募集

募集方法：ボランティア募集チラシ配付、HP等での情報発信、関係機関への声かけ

参加者数：61名

③ 会場ボランティア活動の実施

開館準備、受付、会場の監視・来場者の対応、閉館作業を担った。

④ 活動報告会の実施

キュレーションサポーター、記者クラブの活動報告会と合同で実施。

【サポーター活動報告会】

日時：2019年12月21日（土）

参加者：27名

内容：実施結果報告、座談会、グループワーク



会場ボランティア



サポーター報告会

4. 人材育成

(1)キュレーションサポーター事業の実施（継続・発展事業）

①キュレーションサポーターの募集

募集方法：ボランティア募集チラシ配付、HP等での情報発信

参加者数：10名（19名応募）

②企画会議の実施

活動日：2019年8月3日・17日・31日・9月7日・18日の5回開催

内 容：レクチャー、会場視察、展覧会テーマの検討、作品実見、作者紹介テキスト作成、
展示方法の検討と決定、展覧会DM作成、作品の搬入、設営、作品の搬出、撤去

③地域資源1会場を活用して成果展を開催 テーマ：「うらおも展」

④キュレーションサポーターによるギャラリートークの開催

日 時：2019年9月22日

参加者：24名



キュレーションサポーター

5. 情報発信

(1)多様な人々が情報発信の担い手となる記者クラブの結成（継続・発展事業）

①記者クラブの参画者募集

募集方法：ボランティア募集チラシ配付、HP等での情報発信

参加者数：14名（18名応募）

②編集会議の実施

活動日：2019年8月4日・10月12日・12月7日の3回開催

内 容：取材内容や方法の確認、レクチャー、取材にかかる情報交換、ニューズレター編集作業

③取材活動の実施

活動期間：2019年9月21日～11月24日

内 容：展覧会や周辺地域の魅力について取材活動を行った。

④記者クラブ執筆による記事の定期掲載（中核館サイトを活用）

全会場において瓦版を掲示、併せて SNS による情報発信も行った。

⑤ニューズレターの発行 部数：8,000部 発送先：7,864件

(2)言語環境の整備（他の補助事業により実施）

全会場の全ての文字情報の点字翻訳と英語翻訳を行った。

(3)ドキュメントブックの作成・発信（継続・発展事業） 部数：700部



会場に掲示された瓦版



記者クラブ

記者クラブニューズレター『ISHIN-DENSHIN』

